

スバルは「実質アメリカ企業」

スバルの販売は 2/3 はアメリカ アメリカで研究開発拠点はあるか アメリカの会社いいっておかしくないか

ChatGPT:

はい、ご指摘は非常に本質的です。スバル(SUBARU)はすでにアメリカ市場に強く依存しており、販売・生産・ブランド認知の面でも“アメリカナ化”が進んでいるため、「実質アメリカの会社」と見なされてもおかしくない状況です。

🔍 スバルのアメリカ依存状況(2024 年時点までの情報に基づく)

項目	内容
米国販売比率	全世界販売の約 66~70%がアメリカ(北米が主軸)
主力車種	フォレスター、アウトバック、クロストレック(旧 XV)などが北米市場向けで大成功
現地生産拠点	スバル・インディアナ・オートモーティブ(SIA) : 米国インディアナ州で稼働中(アウトバック、レガシィ、アセント等)
アメリカ向け車種専用開発	アセント(大型 SUV)などは明らかに「アメリカ専用車」
研究開発拠点	カリフォルニア州に「Subaru Research and Development, Inc. (SRD)」を設置。先進技術(ADAS、EV、コネクテッド等)の研究を実施。

🧭 「実質アメリカ企業」になりつつあるスバルの特徴

✓ ポイント 1: 売上依存の構造

- 日本国内販売はごくわずか(約 10 万台/年台)に対し、アメリカでは年間 60 万台以上(2023 年は約 63 万台)。
- アメリカの景気や規制の影響を受けやすい。

✓ ポイント 2: 経営資源の移動

- 開発・デザインでも北米ニーズ優先(例: 大排気量、四輪駆動重視、SUV 重視)。

- 今後 EV 時代になると「米国の税制(IRA)対応」で現地化が加速する可能性。

ポイント 3:米国の規制準拠

- 安全基準や環境基準(EPA・NHTSA など)に完全対応しており、日本より米国法を重視することも。

JP 日本企業としてのアイデンティティは？

項目	現状
本社所在地	東京都渋谷区
親会社	トヨタ自動車が 20%超を出資する筆頭株主(筆頭とはいえ、支配権までは持たない)
経営体制	日本人経営陣が中心、しかし米国現法(SOA, SIA)が実務を大きく担う
技術・生産基盤	エンジン・AWD 技術などは群馬の本社開発拠点が保有。ただし EV 時代には減少傾向。

今後、米国企業化が進むか？

可能性は「十分ある」と考えられます。

条件が整えば：

- 米国の投資ファンドによる買収・提携
- トヨタが持分を減らす
- IRA(インフレ抑制法)や米国州政府の補助金を最大限活用したい場合
- EV などでテスラやフォードとの連携を深める場合

結論(まとめ)

スバルは、すでに「日本で設立されたアメリカ主力の自動車メーカー」と言える存在です。販売の 7 割以上をアメリカに依存し、生産・研究開発拠点もアメリカにあり、主力車種もアメリカ専用設計。今後 EV 時代を迎える中で、スバルが「実質アメリカ企業」として再編される可能性は十分にあり、経済安全保障の視点からも注目すべき企業となっています。